

## 教員紹介

氏名	三島 聡	担当科目	刑法第2部 刑事訴訟法総合演習
略 歴			
出身地	北海道生まれ		
出身大学	1986年 一橋大学法学部卒業 1995年 同大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学		
取得学位	博士（法学）		
職 歴	1990～1992年 第44期司法修習生 1995年10月 大阪市立大学助教授 2007年4月 大阪市立大学教授 2022年4月 大阪公立大学教授 2026年4月 大阪公立大学名誉教授		
在外研究歴	2002年9月～2004年3月 イギリス・リーズ大学法学部刑事司法研究センター客員研究員		
社会貢献等	2006～2012年、2022～2023年 大阪医療刑務所視察委員（副委員長） 2015～2026年 大阪少年鑑別所視察委員（2024～2025年委員長、 2015～2024、2025～2026副委員長）		
主要研究業績等			
主 著 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代刑法学における『国家による保護』と『国家からの自由』」小田中聰樹古稀記念論文集下巻82～118頁（日本評論社、2005年）</li> <li>・「職務質問およびその付随行為における『任意』——日常用語的理解は誤りなのか」法学雑誌64巻4号883～909頁（2019年）</li> <li>・「警察官の違法・不当な職務執行にたいする外部的統制——カナダ・オンタリオ州の苦情処理および捜査・告発制度」大出良知・高田昭正・川崎英明・白取祐司古稀祝賀『刑事法学と刑事弁護の協働と展望』336～375頁（現代人文社、2020年）</li> <li>・「刑事施設独自の医療から社会共通的な医療へ——イングランド刑事施設医療の保健省移管をめぐって」赤池一将編『刑事施設の医療をいかに改革するか』239～260頁（日本評論社、2020年）</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャルワーカーが『ソーシャルワーカー』として中核を担う社会内処遇・非拘禁的措置——スコットランド・地域に根ざした役務提供と中央政府による組織化の動き」土井政和・福島至古稀祝賀論文集『刑事司法と社会的援助の交錯』（現代人文社、2022年）</li> <li>・「刑事施設収容中の診療録の不開示決定に関する最高裁判決と行刑実務」刑法雑誌 63 卷 1 号 24～44 頁（2023 年）</li> <li>・「刑事施設運営にたいする外部的統制——刑事施設視察委員会制度充実に向けて」石塚伸一・赤池一将古稀祝賀論文集『新時代の刑事拘禁法・処遇法』214～241 頁（現代人文社、2025 年）</li> <li>・「留置施設運営の適正確保と警察留置の問題性——近時の不適正処遇事案および全国の留置施設視察委員会の活動からみえるもの」川崎英明ほか編『人権と民主主義の法理論——追悼・小田中聰樹先生』126～152 頁（現代人文社、2025 年）</li> <li>・「第三者機関による刑事施設運営の透明性および適正さの確保——不服審査調査検討会の活動状況と課題」法律時報 98 卷 3 号 107～112 頁（2026 年）</li>   <li>・『刑事法への招待』（現代人文社、2004 年）</li> <li>・『性表現の刑事規制——アメリカ合衆国における規制の歴史的考察』（有斐閣、2008 年）</li> <li>・『刑事司法改革とは何か——法制審議会特別部会「要綱」の批判的検討』（現代人文社、2014 年）〔共編著〕</li> <li>・『裁判員裁判の評議デザイン——市民の知が生きる裁判をめざして』（日本評論社、2015 年）〔編著〕</li> <li>・『2016 年改正刑事訴訟法・通信傍受法条文解析』（日本評論社、2017 年）〔共編著〕</li> <li>・『裁判員裁判の評議を解剖する』（日本評論社、2023 年）〔共著〕</li> </ul>
--	--